

マダガスカル
日本での就労を通じた
農業人材育成
パイロット
プロジェクト

JICA

マダガスカル事務所

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 背景 —

外国人材の不足見通し

- 2040年には約674万人の外国人材が必要になるとの試算（2020年時点では172万人）*
- 東南アジア以外にもアフリカ等新たなフロンティア開拓の必要性も指摘されている

マダガスカルの特徴

- どこか日本人らしい性質を感じる勤勉な国民性
- アジアをルーツに持つ人も多く、最もアジアに近いアフリカ
- 稲作、野菜、果樹、日本でも生産されている作物も多く、他方で課題は多いため日本からの技術移転は有効

日本の労働力不足解消と、マダガスカルの農業・農村開発を担う人材育成でWinWinの関係が構築できるのではないか？

*出所：緒方貞子平和開発研究所「2030/40年の外国人との共生社会の実現に向けた取り組み調査・研究報告書」

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト

ー 背景 (補足：マダガスカル人労働者の状況) ー

Tableau 15. Estimation de l'importance de la présence malagasy à l'étranger selon différentes bases de données

Pays d'accueil	Docquier*(2000)	OCDE**(2000)	Banque mondiale*** (2007)
Belgique	728	885	1 608
Canada	1 600	1865	2 363
Comores	3 551	618	10 401
Etats-Unis d'Amérique	1 517	1 127	1 496
France	22 285	69 396	54 841
Italie	340	1 031	1 279
Maurice	409	548	1 174
Norvège	303	316	551
Royaume-Uni	691	762	1 045
Suisse	702	838	1 102
Autres pays	3 152	1 194	3 951
Total	35 278	78 580	79 811

* Artuc E., Docquier F., Ozden C. et Parsons Ch., (2013). A global assessment of human capital mobility: the role of non-OECD destinations. Le site internet <http://perso.uclouvain.be/frederic.docquier/> a été visité le 10 octobre 2013.

** OCED Base de données sur le site internet <http://www.oecd.org/els/mig/oecdmigrationdatabases.htm> visité le 10 octobre 2013.

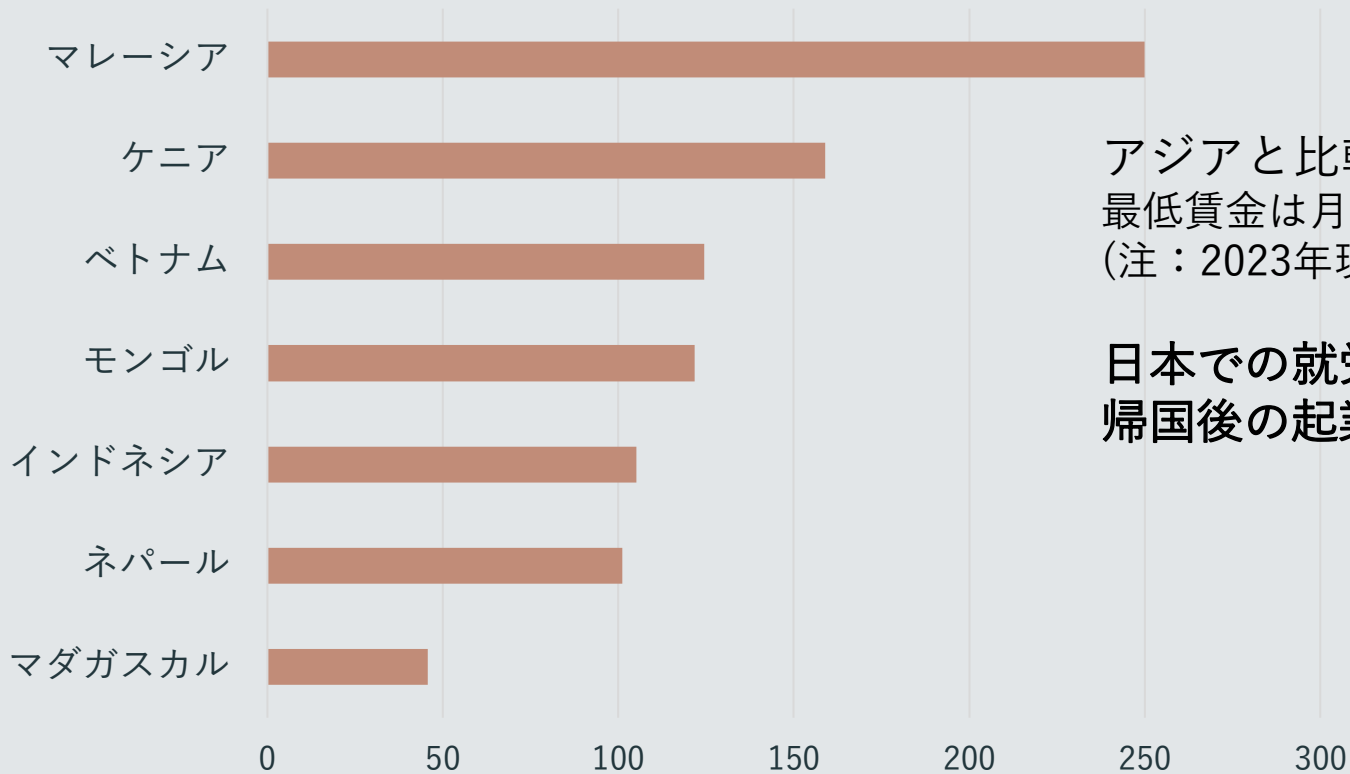
*** Banque mondiale, Base de données bilatérale sur les migrations accessible à l'adresse data.worldbank.org/data-catalog/global-bilateral-migration-database.

- 海外への出稼ぎ労働者の数は限定的。
- 左表は、海外で働くマダガスカル人労働者の数。仏やコモロが多いが総じて数は非常に少ない。
- 現在はカナダ（仏語圏ケベック州）と熟練労働者送出プログラムを実施中。

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト

一 背景 (補足：マダガスカル人労働者の状況) 一

最低賃金 (月額 USD)



アジアと比較して格段に安価な人件費
最低賃金は月額45米ドル (約6000円) 程度
(注：2023年現在は50米ドル (約6600円))

日本での就労を通じて得た収入で
帰国後の起業や投資の促進も期待できる

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 内容 —

・目的

マダガスカルの若手農業人材を日本へ特定技能労働者として送り出し、マダガスカルの農業分野の人材育成及び日本の労働力不足解消へ貢献する

・活動

派遣前訓練の実施（日本語研修・技術研修）

送り出しに向けたマダガスカル政府の手続き・制度の整備

日本側受け入れ機関の開拓・マッチング支援

送り出し後の定期的な研修、帰国後のアクションプラン策定支援

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2022年5月 北岡前JICA理事長のマダガスカル訪問

マダガスカル大統領との対話を切っ掛けに本格始動



2022年8月 宍戸上級審議役のマダガスカル訪問

マダガスカル政府とパイロットプロジェクトの大枠を議論



2023年1月 プロジェクト枠組み合意

大統領府、外務省、公安省、雇用・労働・社会法・社会保障省、職業訓練省、農業・畜産省とプロジェクト枠組み文書に署名

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2023年1月 候補者募集開始

農業・畜産省及び職業訓練省より、傘下の農業研修センター・技術高校等を卒業した人を対象として募集



2023年2月 面接・候補者確定

200名を超える応募から、書類選考・面接を経て、20名の候補者を選出



2023年2月 日本語研修開始

20名の候補者に対して日本語研修を開始

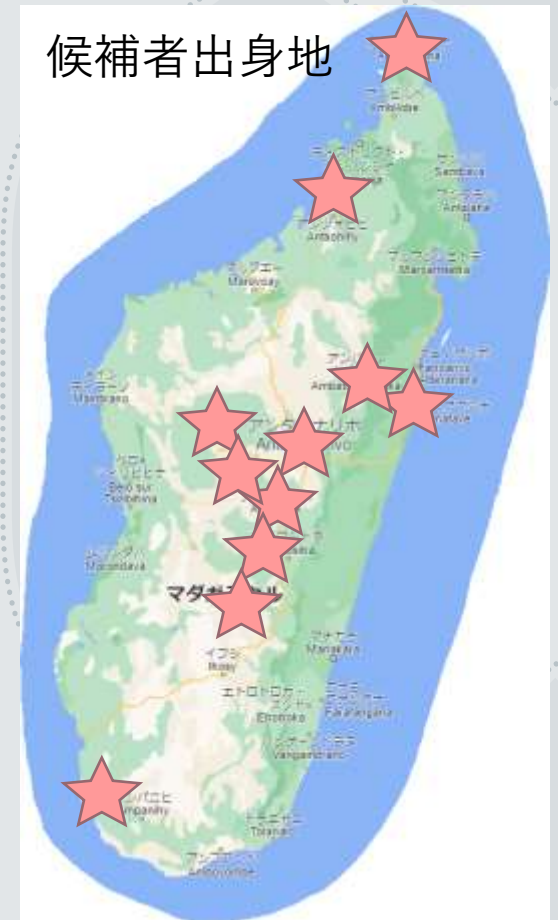
マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 日本語研修 ー

- ・7月のN4取得に向け研修実施中
10人ずつ2グループに分かれて実施
週5日4時間講義＋自習
週に1回程度文化体験



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 候補者プロフィール ー

- ・ 男性12名、女性8名
- ・ 年齢 21歳～29歳
- ・ 学位（最終学歴）
 - 農業技術高校：3名
 - CAFPA（専門学校相当：農業職業訓練研修センター）：3名
 - EFTA（短大相当：農業技術者研修学校）：6名
 - CFFAMMA（農業機械化センター） 学士：2名
 - 学士：4名
 - 修士（農業エンジニア）：2名
- ・ 農業経験
 - 稲作、野菜、果樹
 - 畜産（特に養鶏）



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 今後の活動 ー

・研修の実施

7月 日本語検定試験実施

8月 技術研修実施

技能試験の教材を中心に試験対策

2週間程度

農業研修センターにて合宿形式

8月以降 技能試験実施（現在調整中）

・行政手続き

4月頃 関係省庁向け特定技能制度勉強会

日本の労働法や雇用契約書について説明

けがや病気の場合、帰国する際の対応などを確認

6月頃 勉強会を踏まえて、必要な書類、手順を確定

職業紹介機関のマダガスカルにおける活動許可

雇用契約締結前後の手続き 等

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 紹介動画 —

マダガスカルの農業と若手農家たちを紹介する動画です

<https://youtu.be/XCnry8ZZaVg>



(補足) なぜJICAで外国人材受入支援？

・背景

日本で働く外国人労働者の送り出し国は多くが開発途上国。

今までは技能実習として来日しても、帰国後に日本で得た経験が上手く還元されていなかった例も多かった。

また、不適正な受け入れ（仕事のミスマッチ、悪質な労働環境等）のケースも報告されていた。

⇒開発途上国と日本、双方の発展のためにJICAに果たせる役割があるはず！

- ・日本が外国人労働者から「選ばれる国」となり、またその経験が各国の発展に活かされるように、JICAでも様々な取り組みを始めました。

来日前：日本センターで情報提供

滞在中：国内拠点で多文化共生を後押し

帰国後：技術協力、草の根協力などで日本で得た技術を活かせる場づくりをサポート

詳しくはWebページもご覧ください！：

[外国人材受入れ・多文化共生に資するJICAの取り組み](#)

[外国人材受入れ支援 | JICA in Action | JICA](#)

[外国人材受入れ・多文化共生支援 | 事業ごとの取り組み | 事業・プロジェクト - JICA](#)